

# こんにちは 牛越です

【第156回】  
そろそろ秋風が



大町市長 牛越徹

お盆が過ぎ、そろそろ秋風が待ち遠しい候となりました。先月5日、夏の強い日差しの中、4年ぶりに第45回大町やまびこまつりが市内中央通りで開催されました。午後3時からは、一時雷雨による中断がありました。本部ステージで小学生の金管バンドや和太鼓の演奏、合唱やダンスなどが披露され、歩行者天国となった中央通りでは、お絵描き広場や書道パフォーマンス、吹奏楽やシンセサイザーの演奏、縁日広場などのストリートイベントが繰り広げられ、キッチンカーの出店もあり、多くの人出でにぎわいました。

雨上がりの午後6時半からは、やまびこおどりに30連、約1000人もの踊り連が参加し、宵の涼しさの中で、やまびこ音頭に合わせ、4年間のブランクを取り戻すかのように、大いに盛り上がりました。多大なご協力をいただきました皆さまに心から御礼申し上げます。

また、前夜に開かれた大町ゆかたまつりには、各商店街にゆかた姿の人々が行き交い、にぎわう夏の一夜を楽しんでいました。こうした大町の風物詩、夏まつりが、市民の皆さまのご参加により、に

ぎわいが生まれ、まちの元気の再生につながることを思います。

先ごろ、市内上原の劇団四季の浅利慶太記念館へ見学に伺いました。記念館は先月、劇団創立70年と浅利さんの生誕90周年を記念して展示替えを行い、リニューアルオープンしました。館長の浅野さんのお話によりまずと、劇団の旗揚げは、昭和29年1月で、大雪に見舞われ、波乱の幕開けだったそうです。その後、ドラマ劇を皮切りに、子ども向けのミュージカルなどで公演の幅を広げ、さらに『ウェストサイド物語』などのブロードウェイミュージカルや、『赤毛のアン』『オペラ座の怪人』などの公演により基礎が築かれたとのこと、こうした初期からの劇団の歴史が舞台装置や衣装などとともに展示されています。

ところで劇団四季の理念には「文化の東京一極集中を是正すること、全国に文化の根を下ろし育てる文化の地方分権を目指す」とを掲げており、大町でも小学生を招待する「こころの劇場」が開催されています。市民の皆さまもぜひ一度、身近にある浅利慶太記念館へお出かけください。